

「南会津ワカモノ会議」

提言書

令和2年3月

南会津ワカモノ会議

はじめに

南会津町においては、町の人口は昭和 30 年をピークに自然減に転じ、このまま何もしなければ人口減少がさらに加速すると予測されております。人口の社会減については、就職・進学に伴い、特に若者の人口流出が一貫して続いてまいりました。

そこで、町内の若者の有志が集まり、若者にとって魅力的な町づくりを考えることで若者の流出を抑制し、若者の居場所をつくることを目的に「南会津ワカモノ会議」が平成 28 年度に設置されました。ワカモノ会議では、「若者が元気もりもり楽しんでいる町」を理念に掲げ、自ら考え実践するとともに、町内外の同年代の若者の声を聴き、また若者に限らず多様な人とつながることで新たな価値を生み出してきました。

さらには、自らが実践するだけでなく、若者の声を町政に届け、まちづくりに反映していただくことを目標に掲げ、多くの人の声を吸い上げ、若者の目線で議論を深めてまいりました。

ここに、これまでの成果として、「実施した事業からの提言」と「収集した意見からの提言」の二通りの提言について、とりまとめることができました。

南会津町の明るい将来の実現には、若者を欠かすことができなく、今後希望を持った若者が増え、さらにその想いを後世に引き継いでいくことが大切です。この提言がまちづくりに生かされ、「若者の意見が届く町」、「若者が元気もりもり楽しんでいる町」になることを期待し、このたび次のとおり提言するものです。

令和 2 年 3 月 27 日

南会津ワカモノ会議 会長 星 久徳
並びに メンバー一同

－目次－

1. 南会津ワカモノ会議について	1
(1) 設置の目的と構成メンバー	1
(2) 活動の経過	1
(3) 活動を通じた意見の吸い上げ	5
2. 提言内容	7
(1) 実施した事業からの提言	7
(2) 収集した意見からの提言	11
(3) まとめ	15
3. おわりに	16
－資料編－	
1. 名簿	18
2. 収集意見	22
3. 造成体験コース	33
4. 施策案の事前評価シート	35
5. ログフレーム	36

1. 南会津ワカモノ会議について

(1) 設置の目的と構成メンバー

南会津ワカモノ会議（以下、ワカモノ会議という。）は、若者同士の意見交換や交流の場を設け、参加者相互の交流を深めるとともに、町の現状や将来を考え、まちづくりについて若者の視点から町へ提言することを目的に平成 28 年度に設置され、現在も活動を続けています。



各年の構成メンバーは資料編をご覧ください。

(2) 活動の経過

提言にあたっては、これまでに実践してきた事業やその反省点等から着想したものがあため、過去 4 年間の主な実施事業の概要を下記に示します。

なお、各年の会議開催経過については、資料編をご覧ください。

【実施事業】

平成 28 年度	
事業名：ワークショップ	
実施日：平成 28 年 5 月 28 日～平成 29 年 3 月 29 日	実施場所：南会津町役場等
実施内容： 平成 28 年度については、ワカモノ会議が何を目標としてどういったことに取り組んでいくかについて、時間をかけてワークショップを行い、メンバーの想いを作りました。 また、まちづくりの提言のためには、まずは町のことを知る必要があるため、町内 4 地域を巡り、町の現状を知りました。 さらには、プロジェクトの企画のために、外部講師を招き、その手法を学びました。 なお、ワークショップを経て決定したワカモノ会議の理念は「若者が元気もりもり楽しんでいる町」を目指すことです。この理念を掲げ、平成 29 年度以降の活動も取り組んで参りました。	
実施写真：	
	

平成 29 年度

事業名：ノー残業デー

実施日：平成 29 年 10 月 13 日（金）

実施場所：山王茶屋

実施内容：

若者が集まれる、楽しめる、交流できる場所や時間が少ないことから、毎月第 2 金曜日を「町内一斉ノー残業デー」とし、若者が集まる時間を創出しました。ノー残業デーの実施にあたっては、町内の企業に呼びかけ、88 社からご賛同いただき、ノー残業デーの実施とポスターを掲示していただきました。

また、ノー残業デー当日はいつもより早く退社し、友達と出かけたり、みんなでパーティーをしたり、趣味や家族との時間を有効に活用することを促しおりましたが、ワカモノ会議としては、山王茶屋において映画上映会を行い、集まる場所を創出しました。

実施写真：



事業名：EXTREME 節分

実施日：平成 30 年 2 月 3 日（土）

実施場所：会津高原たかつえスキー場

実施内容：

「行政ではできない、若者ならではのくだらないけど楽しいことをやりたい」というコンセプトで、スキー場を活用したイベントを開催しました。スキー場には年間何十万人ものスキーヤー・スノーボーダーが訪れるため、その方々を対象に実施することで参加者が見込めるだけでなく、県内外の方との交流の機会、さらにはスキー場の魅力向上を通じて町の知名度向上につなげる目的で実施しました。

また、当日は節分ということで節分にちなんだ内容を含め、話題性のあるイベントを考えました。

実施写真：



平成 30 年度	
事業名：ビアガーデン	
実施日：平成 30 年 8 月 11 日（土）	実施場所：グリーンホテルミナト屋上
<p>実施内容：</p> <p>町の賑わいの象徴でもあったグリーンホテルミナトのビアガーデンを復活させるとともに、若い世代でもビアガーデンの楽しさを体験したいという想いに加え、町内ではクラフトビールやバーなど、若い方が起業するなどの新たな波もあることから、古き良き時代と新しい時代のコラボレーションによって地域活性化の一助となることを目的に開催しました。</p> <p>また、イベント実施の広報については、SNS を中心に実施したこともあり、若者の参加者が多く、若者の集まる機会の創出に大きく貢献出来ました。</p>	
<p>実施写真：</p> 	
事業名：高校生との意見交換会	
実施日：平成 31 年 2 月 2 日（土）	実施場所：南会津町役場多目的ホール
<p>実施内容：</p> <p>人口減少・少子高齢化の問題は例外なく本町でも大きな問題となっています。</p> <p>若い人がいかに町に残ってもらうかという議論が多い中、ワカモノ会議では高校生に一度は外の世界を見て、様々な経験を通して視野を広げてもらい、将来的には町へ戻ってきて欲しいと考え、そのためにはどのようなまちづくりが必要かを一緒に考えることで高校生の意見を吸い上げることを目的に実施しました。</p> <p>また、高校生が将来を考える際の参考にしてもらうため、ワカモノ会議メンバーの体験談を聞いてもらいました。</p>	
<p>実施写真：</p> 	

令和元年度

事業名：MINAMIAIZU DISCOVERY ～私の好きな南会津を見つける旅～

実施日：令和元年9月7日（土）8日（日） 実施場所：うさぎの森オートキャンプ場 外

実施内容：

町への提案を考える中で、メンバー自身町のことをよく知らない人もおり、一度足元を見つめ直して「町のことをもっとよく知ろう」というコンセプトで、町民でもあまり知らないような場所を巡り、その中で新たな発見や気づきを共有し、2日間かけて様々な人の多種多様な意見を吸い上げることを目的に実施しました。

町内を「マウンテンバイクで巡る旅」と「茅葺屋根を学ぶ旅」の2つのコースに分かれて旅し、次の日には初日撮った写真を持ち寄って「南会津イイところフォトアルバム」をつくり、それぞれの発見を共有しました。

実施写真：



平成 28 年度～令和元年度

事業名：ワカモノ会議 in Tokyo 2017~2020 (計 4 回)

実施日：毎年 2～3 月開催

実施場所：東京都

実施内容：

本町で暮らす若者（ワカモノ会議メンバー）と首都圏で暮らす本町出身の若者が、“内からの眼”と“外からの眼”で故郷を見つめ直し、素直に思ったこと、感じたことについて意見交換を行いながら、「若者が戻りたいと思う町」、「元気な町」にするためには何が必要かを一緒に考えました。

ワークショップでは南会津町の「魅力的なもの」、「不足しているもの」から町を元気にするアイデアや「南会津での新たな仕事」のアイデアを考えていただき、グループごとに具体的なプロジェクトとしてまとめていただきました。なお、平成 30 年度に開催した「ビアガーデン」についても、この事業の中で話題として出たものであり、この会が「提案を実現できる場」、「都会から地方に関われる場」となっていると感じました。

また、参加者の中には、U・I ターンを考えている人、二地域居住を考えている人、南会津には戻れないが関わりたい人がおり、さらには移住の具体的な相談をしたいという人もおりました。

実施写真：



(3) 活動を通じた意見の吸い上げ

前述のように、様々な活動に取り組み、つながりを広げてきましたが、その中でも重要視していたのは、「町に意見を言えないような人たち」(=若者)の声を吸い上げることでした。

ワカモノ会議の目的は「まちづくりについて若者の視点から町へ提言すること」でしたが、私たちは、メンバーだけの意見ではなく、多くの人の声を聞き、それを踏まえ町への提言を検討することとしました。

各活動の中で様々な意見を吸い上げてきましたが、その中でもデータとして収集したものは下記のとおりです。

なお、データの詳細は資料編に記載します。(アンケートについては、量が多いため記載は控えさせていただきます。)

【収集データ】

- ・「ワカモノ会議 in Tokyo 2017」における提案までの過程で出たアイデア
- ・「ワカモノ会議 in Tokyo 2017」における参加者アンケート
- ・「ワカモノ会議 in Tokyo 2018」における提案までの過程で出たアイデア
- ・「ワカモノ会議 in Tokyo 2018」における参加者アンケート
- ・「ワカモノ会議 in Tokyo 2019」における提案プロジェクト
- ・「ワカモノ会議 in Tokyo 2019」における提案までの過程で出たアイデア
- ・「ワカモノ会議 in Tokyo 2019」における参加者アンケート
- ・「高校生との意見交換会」における提案プロジェクト
- ・「高校生との意見交換会」における提案までの過程で出たアイデア
- ・「高校生との意見交換会」における参加者アンケート
- ・「MINAMIAIZU DISCOVERY」における参加者アンケート

2. 提言内容

提言にあたっては、「実施した事業からの提言」と「収集した意見からの提言」の二通りから提言します。

(1) 実施した事業からの提言

これまで実施した事業を通して、今後のまちづくりとして必要なものを若者の視点から下記のとおり提言します。

No.	モデル案	モデル案の内容	モデル案の提言理由
1	町内一斉ノー残業デーの実施	<p>若者の集まる機会の創出として、町内の企業等が一斉に「ノー残業デー」を実施する。そのために、「町内一斉ノー残業デー」を条例化し、当日はいつもより早い退社を促し、趣味や友人等と過ごす時間にあててもらおう。</p>	<p>現代の若者は働くことへの意識が変わり、ワークライフバランス(*1)を重視するようになりつつある。働く目的が「楽しい生活をしたいから」という若者が増えてきているため、町内において、若者同士が集まる機会を創出し、「仕事以外の生活」の充実が必要と考える。</p> <p>ワカモノ会議で実施した「ノー残業デー」の際には、88社の企業から賛同が得られたことから、企業の働き方改革に対する意識も高いことがわかる。</p>
2	プロモーション活動の場としてのスキー場活用	<p>県内外から年間多くの方が訪れるスキー場を、広告・プロモーション活動の場として活用する。</p> <p>広告・プロモーション内容としては、物産展・参加型のイベント等によるもの、さらにはスキー場内のあらゆる場所に広告スペースを作り、広告主を募集し掲示を行う。</p> <p>加えて、広告の募集については、スキー場が募集し、町内企業に呼び掛ける。</p>	<p>年間何十万と多くのスキーヤー・スノーボーダーが訪れるスキー場は町のPRを行う絶好の場所と考える。</p> <p>ワカモノ会議のイベント時も参加者は当日呼び掛けた方が多く、スキー場での催し物に興味がある来訪者が多いと感じます。また、イベントを開催することはスキー場自体の魅力向上につながり、双方に利益がある。</p> <p>加えて、広告について、スキー場のあらゆる場所（建物を活用した巨大ポスター、ゲレンデマップ、リフト乗降場所、リフト支柱、リフト改札、 Gondola内、スタッフウェア等）を活用し、スキー場が広告を広く募集することで、スキー場の収入源の確保につながる。</p>

No.	モデル案	モデル案の内容	モデル案の提言理由
3	ビアガーデンの開催	<p>若者の集まる機会の創出に大きく貢献したイベントの一つであり、各団体・個人から反響があったイベントでもあったため、引き続きワカモノ会議で事業を実施する。</p> <p>実施にあたっては、ワカモノ会議での実施には限界があるため、関係団体を巻き込み、持続可能な実施体制を目指したいと考えているため、引き続き町からの支援を要望する。</p>	<p>ワカモノ会議での開催時はトータル約 240 名の来客があり、その大半が若者の参加者であったため、若者の集まる機会の創出に大きく貢献している。</p> <p>また、開催にあたっては、広告宣伝について SNS を中心に行っており、広告宣伝費等に経費をかけずに行うことも可能なため、参加団体の寄附金等で賄える可能性がある。</p> <p>加えて、ワカモノ会議の活動に賛同いただき、積極的に支援・協力したいという団体もあることから、関係団体から協力体制を得ることについても十分可能であると考えます。</p>
4	サーモン回帰(*2)の機運醸成	<p>中高生が将来町外に出ていくことは止めることができず、一度町の外に出て戻ってきてもらうような郷土愛の醸成が必要である。</p> <p>そのためには、「若者と一緒に行うまちづくり」、「大人が若者に町の良さを教える」のようなワークショップ等を行い、中高生の意見を聞く機会、町に在住する成人と話す機会等を設け、外に送り出し大きくなって帰って来てもらうよう、町全体で若者を応援する機運を醸成する。</p>	<p>ワカモノ会議が開催した「高校生との意見交換会」の趣旨にもあるように、若者を町内に縛り付けることはできず、むしろ町外の広い世界を見て、様々な教養を身に着け戻ってくるような人材を育成することが必要と考える。</p> <p>中高生時代にまちづくりに携わることで町への思い入れも変わる可能性があり、大人（特に移住者）から改めて町の良さを教えることで気づきが生まれる。大人が子どもたちに郷土愛を教えないければ、郷土愛は醸成しないと考える。</p>

No.	モデル案	モデル案の内容	モデル案の提言理由
5	会津山村道場を核とした体験型観光コンテンツの造成	<p>会津山村道場においては、うさぎの森オートキャンプ場、山荘ななみねの宿泊施設があり、周辺には豊富な自然資源、山王茶屋等の茅葺屋根群があることから、体験コンテンツを充実させ、滞在時間を確保することで、当該地域の宿泊客の増加につなげる。</p> <p>体験コンテンツの造成にあたっては、地元のディープな魅力を発見できるコースであり、それを紹介できるガイド付きメニューを造成する。</p> <p>なお、参考にワカモノ会議で造成したコースを資料編に記載する。</p>	<p>近年の訪日観光客数は過去最大を更新しており、その中で、訪日の目的がモノ消費（ショッピング）からコト消費（体験）に変化し、日本各地で体験メニューが造成されている。</p> <p>また、訪日観光客に限らず、日本国内の若者の考え方が変わってきており、物欲が希薄になり、お金は趣味や経験のために使う人が多くなっていると感じる。その理由として、『インスタ映え』という言葉が世間で周知され、“いいね”を獲得することが一種のパロメーターとなっている節から、社会変化の影響と考える。</p> <p>さらには、アウトドアブームが再燃しており、キャンプと併せてアクティビティ系の体験コンテンツを造成すれば、相乗効果があるものと考えられる。</p>
6	関係人口プラットフォームの構築	<p>ワカモノ会議 in Tokyo を開催してわかるように、首都圏において、地方（ふるさと）に関わりを持ちたいという人は多く、また自分の能力を活かし地域に貢献したいと考える方が増えている。</p> <p>そういった方と継続的に交流する関係を築き、首都圏におけるワークショップだけでなく、実際に町に足を運んでもらい、地域づくりに携わってもらうようなプラットフォームを構築し、変化を生み出す人材が地域に入り、地域の担い手となってもらう。</p>	<p>地方では、人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面している。こうした課題に対して、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々である「関係人口」に着目し、地域外からの交流の入り口を増やすことが必要だと考える。</p> <p>ワカモノ会議で行った、「ワカモノ会議 in Tokyo」の中で、提案されたもの、話題となったものが、実現化されてきており、また今後実現を検討しているものがあるとも聞いており、こういった機会及び人材は今後まちづくりを考える上で重要なものと考えられるので、本町とその人材を結びつけるプラットフォームを構築することが求められる。</p>

No.	モデル案	モデル案の内容	モデル案の提言理由
7	中心市街地活性化のためのまちなか活動拠点整備	<p>中心市街地活性化策の一つとして、若者のまちなかでの活動拠点の整備を行う。</p> <p>またその拠点の機能としては、下記3つを含めることを提言する。</p> <p>1点目として、町民がコミュニティ活動・イベントを開催することができる会議スペース、フリースペースを設ける。</p> <p>2点目として、学生の利用料を無料とし、その代わりに様々なイベントに参加してもらうような仕組みを構築する。</p> <p>3点目として、育児中の母親が子どもを連れて気楽に訪ねられるような子育て支援スペースを設ける。</p> <p>加えて、拠点の整備にあたっては、町内の若者の有志を募り、若者自らの手で空き家をリノベーション(*3)するような方法も検討すること。</p>	<p>中心市街地に若者を呼び込むことは中心市街地活性化につながり、また若者のまちづくりへの参画も可能とし、郷土愛の醸成へとつながると考える。</p> <p>拠点の機能として、コミュニティ活動やイベント開催を可能とすることで、自ら積極的に活動する若者が増え、担い手の育成につながる。また、学生利用のハードルを下げ、活動できる場を提供することで、学生の郷土愛の醸成につながる。さらには、育児中に孤独感を感じる母親は多く、子どもが遊べるスペースを設けることで、母親同士が交流でき、新たなコミュニティが生まれる場所となると考える。</p> <p>また、拠点の整備に若者自らの手で行うこと自体が、まちづくりへの参画となると考えます。</p>

*1:「仕事」と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった「仕事以外の生活」との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方のこと。

*2:サケが海で成長したのち、産卵のために生まれた川へ帰って来ることから連想した造語のこと。

*3:既存の建物に大規模な改修工事を行い、用途や機能を変更して性能を向上させることや付加価値を与えること。

(2) 収集した意見からの提言

収集した意見からの提言については、1. (3) 活動を通じた意見の吸い上げで示した収集データを活用し、下記の (i) ~ (vi) の工程を経て提言案を作成しました。

なお、この工程は、平成 30 年度に実施したファシリテーター研修を基に、高校生との意見交換会、ワカモノ会議 in Tokyo 2019 での実践を踏まえ、ワカモノ会議として確立した手法です。

(i) 収集したアイデアの再分類

これまで実施したワークショップ等から出されたアイデアをワカモノ会議で下記のカテゴリに分類しました。

【カテゴリ】

食べ物、教育、人口、交通、人間性、人間関係 職業、自然、文化、サービス、施設

(ii) 提言するカテゴリの決定

上記カテゴリの中から、提言するカテゴリを二つに絞りました。提言する二つのカテゴリは「人間性」と「施設」であり、決定理由は下記のとおりです。

<人間性について>

「人間性は他のカテゴリと比べて、行政が取り組み難いところなのでワカモノ会議で取り組むべきでは」といった意見や「観光において人との関わりがあると地域にお金が落ちるが、南会津町はその取り組みが弱いように感じる」といった意見があり、加えて、ワカモノ会議 in Tokyo 2019 において、人間性に関する提案もあったことから、提言するカテゴリの一つとすることを決めた。

<施設について>

町内出身のメンバーも町外出身のメンバーも、町に娯楽が少ないと感じている。また、高校生との意見交換会で出た意見も圧倒的に「施設がない」、「娯楽が少ない」といった意見が多かったことから、施設についても提言するカテゴリの一つとすることを決めた。

(iii) アイディアの深堀

「人間性」、「施設」のグループに分かれ、すでに出ているアイディアからさらに意見出しを行いました。その意見出しにあたっては、ブレインストーミング法(*1)と KJ 法(*2)を用いて、新たなアイディアを出し、出た意見はポストイットに記入し、模造紙に貼り付け、分類を行いました。

*1: グループで自由に意見を出し合い、あるテーマに関する多様な意見を抽出する発想技法のこと。

*2: 収集した情報をカード化し、同じ系統のものでグループ化することで情報の整理と分析を行う発想技法のこと。

(iv) 投票による意見の集約

(iii) で出た意見の内容を共有し、全員で投票を行います。投票結果を踏まえながら、さらに肉付けや組み合わせを行い、具体的な提言案を複数作成しました。

(v) 具体的な提言案の評価

作成した複数の具体的な提言案について、そのまま提言とはせず、自分たちで下記項目について評価しました。その後、評価結果を踏まえ、提言する案をカテゴリごとに一つに絞りました。

なお、評価にあたっては、資料編に掲載する「施策案の事前評価シート」を用いて、実施しました。

【評価項目】

①目標への貢献度	②費用	③実行可能性	④時間	⑤望ましくない副作用
----------	-----	--------	-----	------------

(vi) 詳細の検討

カテゴリごとに一つの提言案について、より詳細な項目まで検討し、プロジェクトとしてまとめました。まとめた提言案については、次のとおりです。

なお、プロジェクトとしてのまとめにあたっては、資料編に掲載する「ログフレーム」を用いて、実施しました。

プロジェクト名; 南会津人活用プロジェクト

期間; 3年間

対象地域; 南会津町全域

ターゲットグループ; 埋もれた人材と人材を求めている人

プロジェクトの要約	指 標	指標の入手方法	外部条件
上位目標 若者が元気もりもり楽しんでいる町になる	若者が「住みやすい町と感じる」割合が増加する	町民アンケート	
プロジェクト目標 世代を越えた交流の増加	「以前より世代の異なる人との距離が近づいたと感じる」人の割合が50%以上	プロジェクトでアンケートを実施	
成 果 1. 文化を若者に継承する 2. (1)埋もれた人材(人財)を発掘する (2)技術を提供したい人と技術が欲しい人・企業のwin-winな関係が構築できる	・「知らなかった文化を知ることができた人」の人数が50%以上 ・「実際に知ったことを実生活に取り入れた人」の人数が50%以上 ・「サイトを通したマッチングの件数」が10件/年	・プロジェクトでアンケートを実施 ・プロジェクトでアンケートを実施 ・作成したサイトから入手	
活 動 1. ばあちゃんねるの開設(動画チャンネル) (1)文化継承できる人材を探す (2)人材に取材等を行い、情報収集する (3)動画の企画、撮影、編集、配信 (動画企画案:郷土料理教室、方言教室、伝統芸能教室) 2. 南会津人図鑑 (1)魅力的な人・特徴的な人を見つけ、データとして蓄積する (2)蓄積したデータをSNS等で発信する (3)人材マッチングサイト・カタログ等を作成し、必要とする人とマッチングする	投 入 ＜人材＞文化人ばあちゃん、ワカモノ会議メンバー、商工会、観光物産協会、区長、ITに強い人 ＜備品＞ビデオカメラ、パソコン、動画編集ソフト、マイク等 ＜運営費＞ホームページ作成委託料、カメラ、パソコン、動画編集ソフト、マイク等 合計概算125万円 ※県・町の補助金を活用	人材のマッチングは関係する法律等を調査する(労働者派遣法等)	前提条件 文化が途絶えておらず、継承していること

プロジェクト名；物々交換でまちの賑わいを取り戻す！プロジェクト

期間； 3月中の土日

対象地域； 南会津町全域

ターゲットグループ； 働き盛りの若者からお年寄りまで

プロジェクトの要約	指 標	指標の入手方法	外部条件
上位目標 若者が元気もりもり楽しんでいる町づくり	利用者(延べ人数)の30%以上が若者	開催会場における統計	
プロジェクト目標 地域の中で、モノや情報を循環 ⇒ 地域力アップ！	・年間の物々交換件数 300件以上 ・年間の利用者数 100人以上 ・出店件数 10件以上	開催会場における統計	
成 果 ・“モノ”のロスが減らす (いないモノ → いる人、転出する人 → 転入する人) ↓ これを通して ・人と交流が生まれる ↓ ・情報交換(PRIにも活用する)	・利用者アンケートで「モノのロスが減ったと思うか？」の質問に「はい」と答えた割合が50%以上。 ・「普段話さない人と交流できたか？」の質問に「はい」と答えた割合が50%以上。	利用者アンケート	大型店舗のリサイクルショップが近隣に進出してこない
活 動 ・いららないモノを集める(収集活動及び物々交換の実施を周知) ・開催場所の確保(体育館や役場、ゆくゆくは空き家活用) ・“物々交換のススメ”(カタログ的なもの)を作成 ・アンケート調査の実施(実施前、実施後) ・交換だけでなく、賃借もアリ(法律的にOKな範囲で) ・フリーマーケットも同時開催	投 入 ＜会場＞公共施設(体育館、役場、学校など) ＜備品＞机、イス ＜人材＞運営スタッフ(ボランティア) ＜広告＞宣伝用チラシ、バナー、のぼり旗、“物々交換のススメ”(加えて、広報誌、SNS) ＜アンケート＞調査会社等に委託 ＜予算＞会場費、広告費、委託費を合わせて概算30万円		・町補助金や銀行・信金等の助成金を活用 ・協賛企業を募る 前提条件 物々交換をする人、モノが一定量あること ⇒ 物々交換が成立する

(3) まとめ

若者のために、若者の目線で、二通りの提言をさせていただきましたが、一つ目の「実施した事業からの提言」では、若者の集まる機会・場所の創出を中心に、加えて、観光振興、学生の郷土愛の醸成、中心市街地活性化等の提言をさせていただきました。これらの提言をした理由については、それぞれの提言理由のとおりですが、ワカモノ会議として4年間活動してきた中から、若者なりに考え、町を元気にするために取り組んできたものが基となっており、若者が望むまちづくりにつながるものと考えます。

次に二つ目の「収集した意見からの提言」では、活動の中で町内の高校生や首都圏在住で町内出身の若者等から意見を聞き、それをワカモノ会議でさらに検討することで様々な立場の若者の意見を提言の中に反映できたものを感じております。また、提言内容は粗削りではありますが、提言までの過程において、ワカモノ会議で構築した手法を用いて議論したものであり、その手法の構築自体も成果の一つと言えます。こういった若者の意見を聴取し、まちづくりに反映する機会が増え、まちの活性化につながっていくことを期待します。

3. おわりに

ワカモノ会議として、様々な事業を自ら実践し、多様な人の意見を聴取するなど取り組んできましたが、それらを検討する段階において、若者が自由に集い、活動できる拠点が無いことを痛感しておりました。

今回提言の中にも、中心市街地活性化策の一つとして、若者の集まれる拠点整備を提言させていただきましたが、拠点を整備することで、若者中心のコミュニティ活動やイベントが開催され、自ら積極的に活動する若者の増加、さらには、まちづくりの担い手の育成につながると考えますので、若者との協働のまちづくりの促進のためにも、重ねて若者の集まれる拠点の整備を要望します。また、拠点整備にあたっては、町の公共施設管理計画が策定され、施設の適正管理を計画的に推進するとなっている中、施設を新たに建てることは現実的ではないため、空き家・空き店舗の改修等での実施を提言します。

また、現代の若者は会社や地域に貢献したいと思う一方で、見返りを求める人も少なくありません。会議を通して、若者のまちづくりへの参画には、若い世代に合った参画の促進が必要であることも感じておりました。

そのためにも、若者の存在意義があることや居心地の良い雰囲気づくり、参加の呼びかけにはLINEなどのSNSを活用すること、さらには、やる気を起こさせるような動機付けが最も重要と考えます。例えば、若者が何かの団体に属していれば、その団体を財政的に支援する代わりに、若者としてまちづくりに対するアイデアを提供してもらう方法、地域貢献活動に対して表彰するなどの評価・賞賛する方法などが考えられます。

これらは、私たちがワカモノ会議の中で率直に感じたことであり、若者の意見をまちづくりに反映するためにも、必要な考え方の一つだと思っております。私たちの提言が、今後のまちづくりを行っていくうえで、若者との協働のまちづくりにつながり、若者が元気に元気に楽しんでいる笑顔が見られることを切に願っています。

最後になりますが、講師としてご教授いただいた皆様及び各種事業でご協力いただいた関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

令和2年3月27日
南会津ワカモノ会議メンバー一同

— 資料編 —

1. 名簿及び会議開催経過

第1期

会 長 馬場 正倫

副会長 芳賀 美玖

副会長 星 慎

メンバー 矢沢 芙咲 新保 宗嗣 樋口 聖也

 楠 奈津美 馬場 亮太 佐野 美沙

 大塚 晃司

会議開催経過

平成28年 5月25日 第1回運営委員会

平成28年 6月26日 第1回会議

平成28年 7月25日 第2回会議

平成28年 9月 6日 第3回会議

平成28年10月11日 第4回会議

平成28年10月25日 第5回会議

平成29年 1月18日 第6回会議

平成29年 3月29日 第7回会議

第2期

会 長	馬場 正倫			
副会長	芳賀 美玖			
メンバー	矢沢 芙咲	新保 宗嗣	楠 奈津美	
	馬場 亮太	佐野 美沙	大塚 晃司	
	星 久徳	渡部 高志	君島 達哉	
	松澤 瞬	星 拓哉	渡邊 洋一	
	渡部 安衣	千本木洋介	渡部 和樹	

会議開催経過

平成29年	6月14日	第1回会議
平成29年	8月 2日	第2回会議
平成29年	8月22日	第3回会議
平成29年	8月29日	第4回会議
平成29年	9月19日	第5回会議
平成29年	9月20日	第6回会議
平成29年	10月 4日	第7回会議
平成29年	11月 7日	第8回会議
平成29年	11月22日	第9回会議
平成29年	12月 6日	第10回会議
平成30年	1月11日	第11回会議
平成30年	1月16日	第12回会議
平成30年	1月31日	第13回会議

第3期

会 長 千本木洋介

副会長 芳賀 美玖

メンバー 楠 奈津美 佐野 美沙 星 久徳

 松澤 瞬 星 拓哉 渡邊 洋一

 渡部 安衣 半田翔太郎 菅家 裕貴

会議開催経過

平成30年	5月31日	第1回会議
平成30年	6月13日	第2回会議
平成30年	6月26日	第3回会議
平成30年	7月 4日	第4回会議
平成30年	7月11日	第5回会議
平成30年	7月17日	第6回会議
平成30年	7月27日	第7回会議
平成30年	8月 3日	第8回会議
平成30年	10月17日	第9回会議
平成30年	10月31日	第10回会議
平成30年	11月14日	第11回会議
平成30年	11月21日	第12回会議
平成31年	1月 9日	第13回会議
平成31年	1月31日	第14回会議

第4期

会 長 星 久徳

副会長 渡部 安衣

メンバー 佐野 美沙 松澤 瞬 千本木洋介

 星 弥生 安藤 英之 渡部 政和

 向高 大視 月田 大輝 荒明 瑞貴

 芳賀沼克紀 阿久津 舞 桜井 悠

会議開催経過

令和元年	5月29日	第1回会議
令和元年	6月13日	第2回会議
令和元年	6月19日	第3回会議
令和元年	7月10日	第4回会議
令和元年	7月17日	第5回会議
令和元年	7月24日	第6回会議
令和元年	7月31日	第7回会議
令和元年	8月 8日	第8回会議
令和元年	8月21日	第9回会議
令和元年	8月28日	第10回会議
令和元年	9月 4日	第11回会議
令和元年	9月 6日	第12回会議
令和元年	9月 7日	第13回会議
令和元年	10月16日	第14回会議
令和元年	10月30日	第15回会議
令和元年	11月15日	第16回会議
令和元年	11月19日	第17回会議
令和元年	12月 4日	第18回会議
令和2年	1月 8日	第19回会議
令和2年	2月 9日	提案会議

2. 収集意見（アイデア・提案プロジェクト）

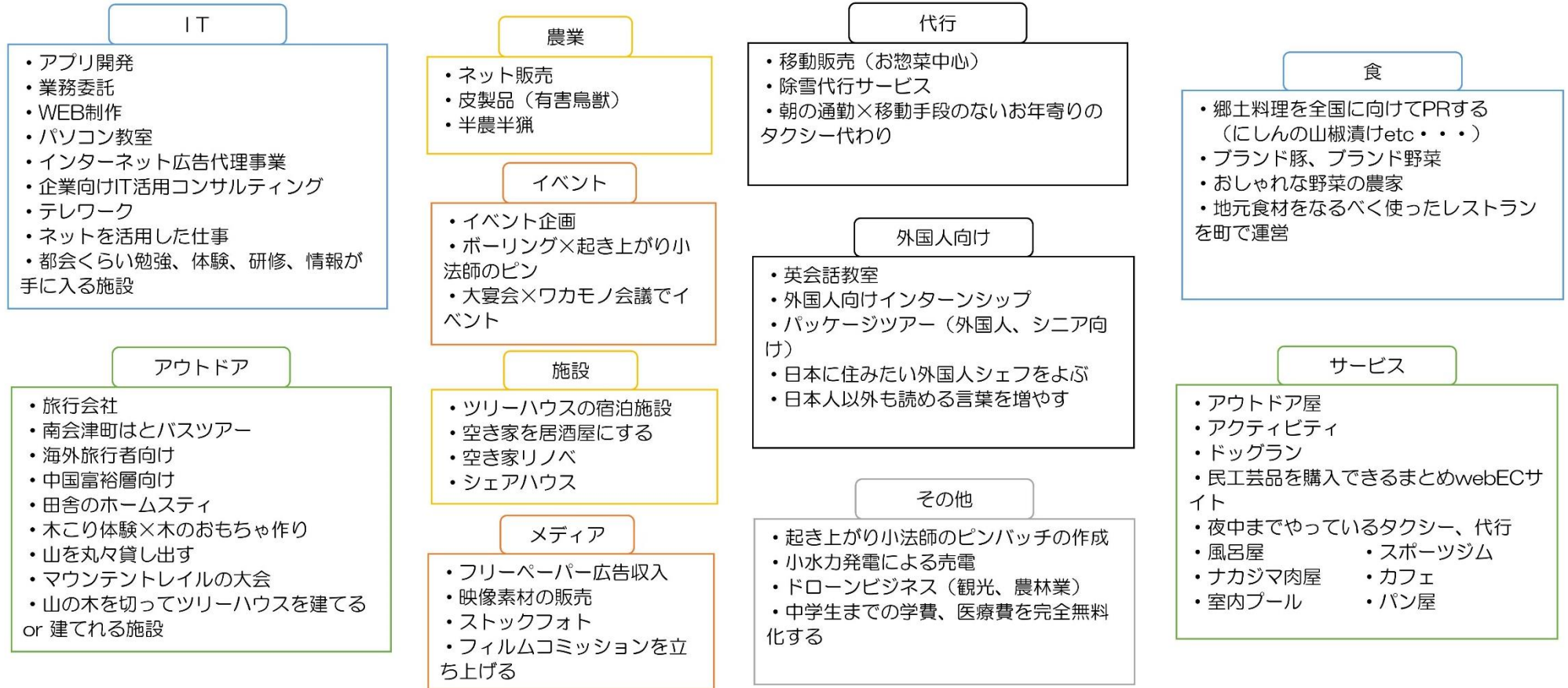
「ワカモノ会議 in Tokyo 2017」における提案までの過程で出たアイデア

残したいもの (Keep)	課題 (Problem)
<ul style="list-style-type: none">• 皆優しい• 自然との関わり• 人があったかい• 遊べる川• 雪• 空気• 大自然• 子育て• 水が旨い• 分踊り（世話人）• 実家• 友達• 四季がある• 野菜が美味しい• 伝統食• 高速道路のない環境を残したい• 地域のつながり• 家族がいる• 田園風景• 方言• 温泉• 早く帰れる職場が多い（イメージ）• スキー場• ゴキブリが少ない• 信号が少ない• 登れる山• 声かけ、気にしてくれる感• 神仏への配慮（祇園祭を中心に）	<ul style="list-style-type: none">• 少子化、進学により子どもがいない• 就ける仕事に限られている（と誤ってしまっている）• 車がないと移動できない• 現在の生活水準を満たす収入を得る所に限られている、少ない• 子どもの選択肢の少なさ• 遊べる場所が少ない• ウワサがすぐ広まる• コンビニが少ない• 高速道路が通ってない• 新幹線が通ってない• 町外への情報量が少ない• 町外在住者が町の今を知りにくい• 人口が少ないため商売ができない• 「新しいもの」への遮断• カメムシ• 居酒屋が少ない• 雪片付け• 電車の本数が少ない• バスの利便性• 祇園祭のお党屋の減少• 病院がない、遠い（地域による）• 住民と役所の温度差• 老後の心配• 地元あまりに友達がいない（首都圏へ）• 服やインテリアとかおしゃれな街ではないのでダサく感じる• 30歳以下に限定される採用基準• 公務員、医療関係以外の給料が安くて結婚に至らない• ピラミッドの底辺の人の意見があがらない• 日曜日に子供を預けるところがないため、サービス業等の就職できない

※類似のもの、重複のものはまとめた

「ワカモノ会議 in Tokyo 2018」における提案までの過程で出たアイデア

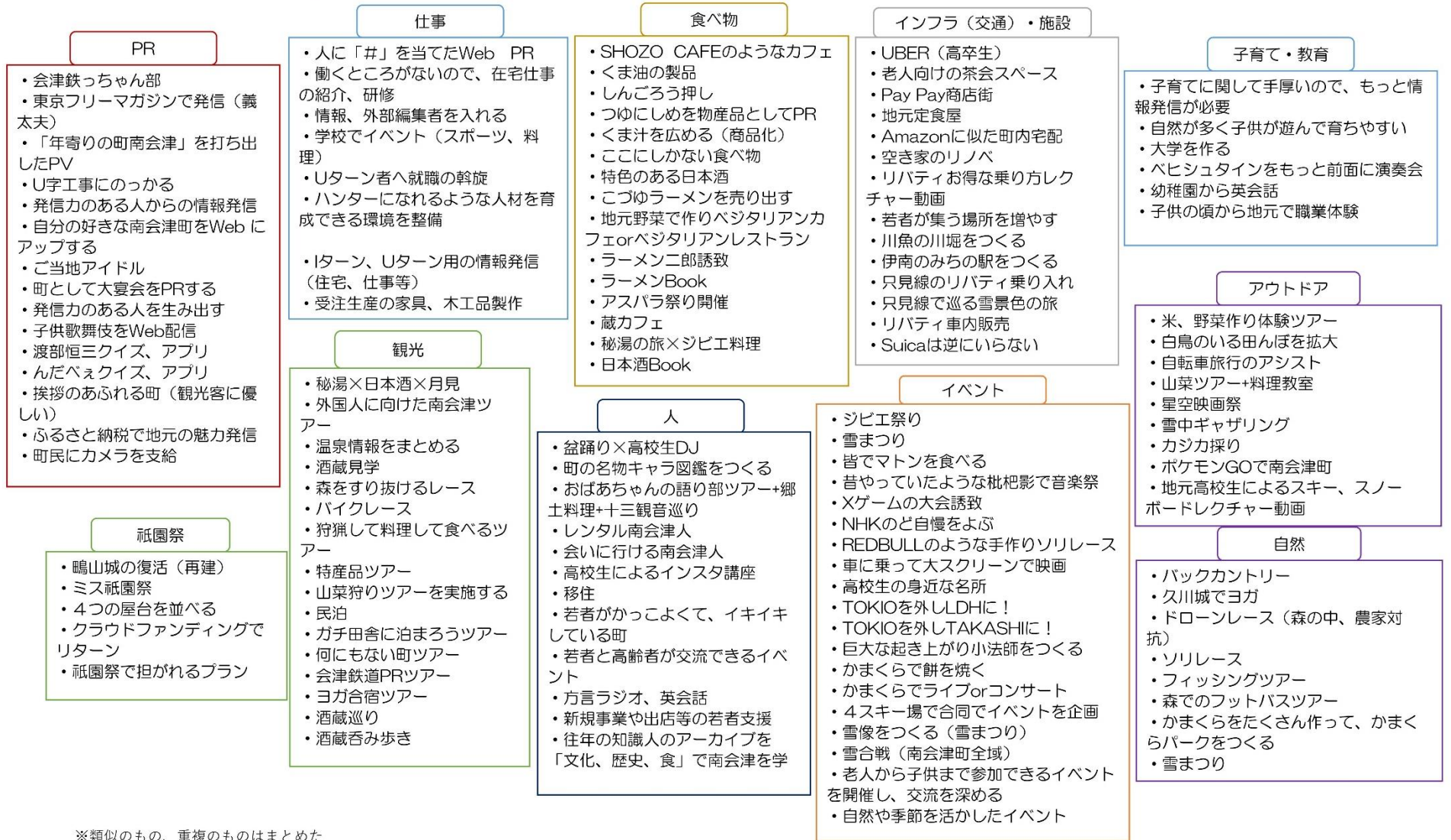
南会津町で稼ぐ方法を考えた



※類似のもの、重複のものはまとめた

「ワカモノ会議 in Tokyo 2019」における提案までの過程で出たアイデア

高校生との意見交換会で出た意見をもとに町に必要なまちづくりを考えたい



※類似のもの、重複のものはまとめた

「高校生との意見交換会」における提案までの過程で出たアイデア①

魅力あるもの（残したいもの）

食べ物

- ・米がおいしい
- ・南郷トマト
- ・日本酒
- ・アスパラガス
- ・ばんでいもち
- ・郷土料理うまい
- ・特産品が多い
- ・まもる食堂
- ・幸ラーメン
- ・まりちゃんラーメン
- ・麺クイーン
- ・一道

観光

- ・スキー場が4つある
- ・大宴会
- ・祇園祭
- ・温泉がいい
- ・レジャースポーツ
- ・観光名所がある

人

- ・人が優しい
- ・挨拶をしてくれる
- ・ゆるい感じ
- ・泊めてくれる
- ・真夜中に除雪している人
- ・みんな仲良し
- ・周りとのつながり
- ・方言
- ・地区の人大体親戚
- ・地域の交流
- ・人脈が広がる
- ・おじいちゃん、おばあちゃん

仕事

- ・農業・林業
- ・大工 製造業

自然

- ・星がきれい
- ・雪
- ・かまくら
- ・パウダースノー
- ・水無川
- ・伊南川
- ・自然豊か
- ・森
- ・駒止湿原
- ・町の雰囲気・スケール
- ・白鳥のいる田んぼ
- ・景色がきれい
- ・動物が自然に見れる
- ・鹿
- ・紅葉がきれい
- ・空気がきれい

交通

- ・会津鉄道最強
- ・無人駅にも運行情報が早いし丁寧

施設

- ・養鱒公園
- ・ふるさと公園
- ・びわのかげ公園
- ・専門店ある
- ・住むところがある
- ・住宅が増えてきた

歴史・文化

- ・子ども歌舞伎
- ・盆踊り
- ・街道が多い
- ・歴史がおもしろい

※類似のもの、重複のものはまとめた

足りないもの（課題）

施設

- ・映画館
- ・おしゃれなショップ
- ・プリクラ
- ・ボーリング場
- ・ファストフード店
- ・コンビニ
- ・脱毛サロン
- ・洋服屋
- ・土地を活用できていない
- ・駅前が発展
- ・大型商業施設
- ・カフェ
- ・ゲームセンター
- ・TSUTAYA
- ・放課後のたまり場
- ・集う場所
- ・劇場
- ・商店街が暗い
- ・動物病院

仕事

- ・働くところがない
- ・職種
- ・トリマー

※類似のもの、重複のものはまとめた

観光

- ・観光地がない

自然

- ・雪が降りすぎる

人

- ・若い人が少ない
- ・少子高齢化

教育

- ・学校存続の危機
- ・学校
- ・部活動

情報

- ・若者が帰りたいと思うキッカケ
- ・売り出し方が下手
- ・情報

行政

- ・移住者への手厚い支援
- ・高齢者への支援策が多く若者に少ない

交通

- ・電車の本数少ない
- ・バスの本数少ない
- ・スキー場への無料バス
- ・電車賃高い
- ・町内循環バス走らせて
- ・高速道路
- ・田島駅に券売機欲しい
- ・空港
- ・Suicaが使えるようにしてほしい
- ・高架下の音にびっくりする
- ・除雪が雑
- ・リバティの使い方が外部の人にわかりづらい

その他

- ・主張
- ・プライド

✿ 春よ来い ✿ チーム

レンタル南会津人プロジェクト(仮)

・ターゲット

日本酒好きな南会津を知らない人

・目標

南会津に来てもらう。魅力を知ってもらう。

1泊。(日帰りではなく)

(永住。)

・成果

日本酒・地元の食材・料理を提供。日本酒は蔵元・料理は地元の方(おばあちゃん等)にイベントで東京へ来てもらう

・活動

1. 不定期の^{あぐまり}会合 方言ラジオお願いします。

2. 日本酒の試飲・販売

✳ 3. 宣伝で SNS 発信記事・スタッフ

✳ 4. 友人や家族、各み仲間を連れてくる。

✳ 5. 会津を感じる写真を飾る

6. 会津の工芸品の紹介 (ぶどうの皮のカゴ
会津おめん
南郷トト等)

(7. ツアー) ⊕ イベント

・予算

・役場職員、農家、酒蔵、工芸家

・んだべん、春よ来いチーム、南会津知ってる人

ドローンといえば"南会津プロジェクト" チームタタ

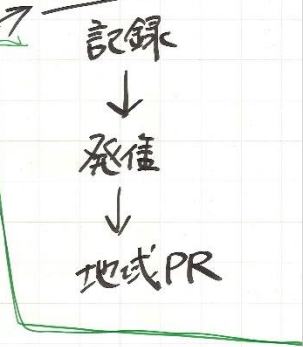
- ② ターゲット 外国人, 若者(10~30代), 農家
- ③ 目標 観光客誘致, 人材育成, 雇用,
- ④ 成果 地域経済活性化, 南会津内の新規産業
- ⑤ 活動内容

経済効果

- レース整備
(現地工不産業へ)
- 宿泊施設
- 食事
- (メディアPR)

ドローンレース
南会津 Cup

ドローンを活用した
もうひとつの事業



人材育成

- 外国人交流
- 最新機器に触れ合える
- 研修事業(現地人を講師に)
- ITに強い人材
- 高校生のバイト, 社会への活用機会創出

⑥ 予算, 人.

○ 予算: 〇〇〇億円 (ドローン1台 20~150万円)

○ 人: ドローンカー, ティーチー, クリエイター, 皆んな
→ 将来的には現地, 南会津町民

Minami Aizu Rock 79

ターゲット

・若い世代 ・家族連れ



プロジェクト目標

フェスを盛り上げ、来るリピーターを増やし、規模をドンドン拡大させていく。
知る、来る、教える、アワード作戦。

成果

南会津に来る若い人が増える。参加した人に南会津野の良さを発信してもらう。
歴史を築ける。

具体的な活動内容

かまくら屋台を並べる。屋台ごとに特産品、食事、カフェなどをやる。
ライブ(屋外)をする。出ればかまくらから観賞できるようにかまくらのテントを作成。
SNS発信してくれた人には野の特産物など特産品を贈呈。

投入

「人」ワカモノ会議、商工会、地域おこし協力隊、土壌業者、企画者陣はSNSで発信。
(要案のため)

「費用」100~1000万円くらい

作
題
名

会津田島祇園祭拡大スペシャル

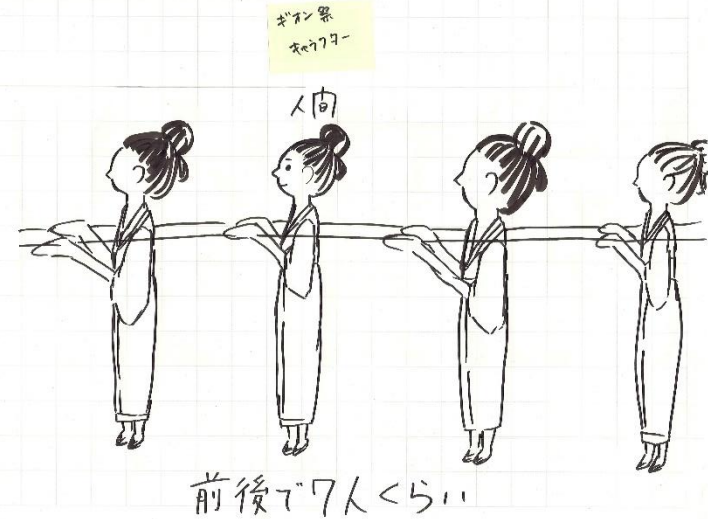
目
的

世界No.1の祇園祭にするぜ!


内
容

- PRのためのアイドル結成
- メディアの活用(アニメ、ドラマ、映画など) ※~~マジなや~~マジなや-?
- 有名アーティストのライブ
- 冬にやってみる
- インパクトのある屋台
- キャンペーンの実施
(和服、家族、カップル割引など)

冬将軍チーム



目的 - 他県の人との交流が南会津に定着する

By. シャイニング Summer 

作戦名: 今で会う時。

1 今出会う時!


2 他県の人との交流 (東京)

3 トラック雪運び

東京で雪合戦
日本のソカスに負けて南会津着
日本のかまくらで"ういっ"
日本のツリーハウスに宿泊

南会津 トラック雪運び 東京 雪合戦 日本一のソカス 日本一のツリーハウスに宿泊

イラスト



日本一の花火大会 (南会津で開催して東京の人を見れる)

かまくらでういっをやる

ツリーハウス 日本一

南会津着

日本一のソカス

雪合戦

雪運び

プロジェクトの卵

作戦名：

南IZ'ONE

目的

芸能人を輩出し、観光大使になり、他の地域と連携する。

内容

壮真が南会津で才能を開花する！ ⇒ 壮真、憧れの対象となる！ ⇒ 壮真、様々なものをプロデュースする！ ⇒ 世界の壮真として活躍

ストリートライブ
12月、2024年12月
12月

南会津・芸能大会
など、他の人は
上

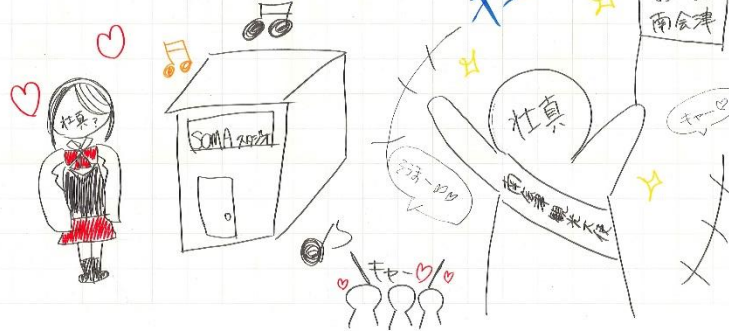
スチジオを作る

制限がわいくして
かわいい！

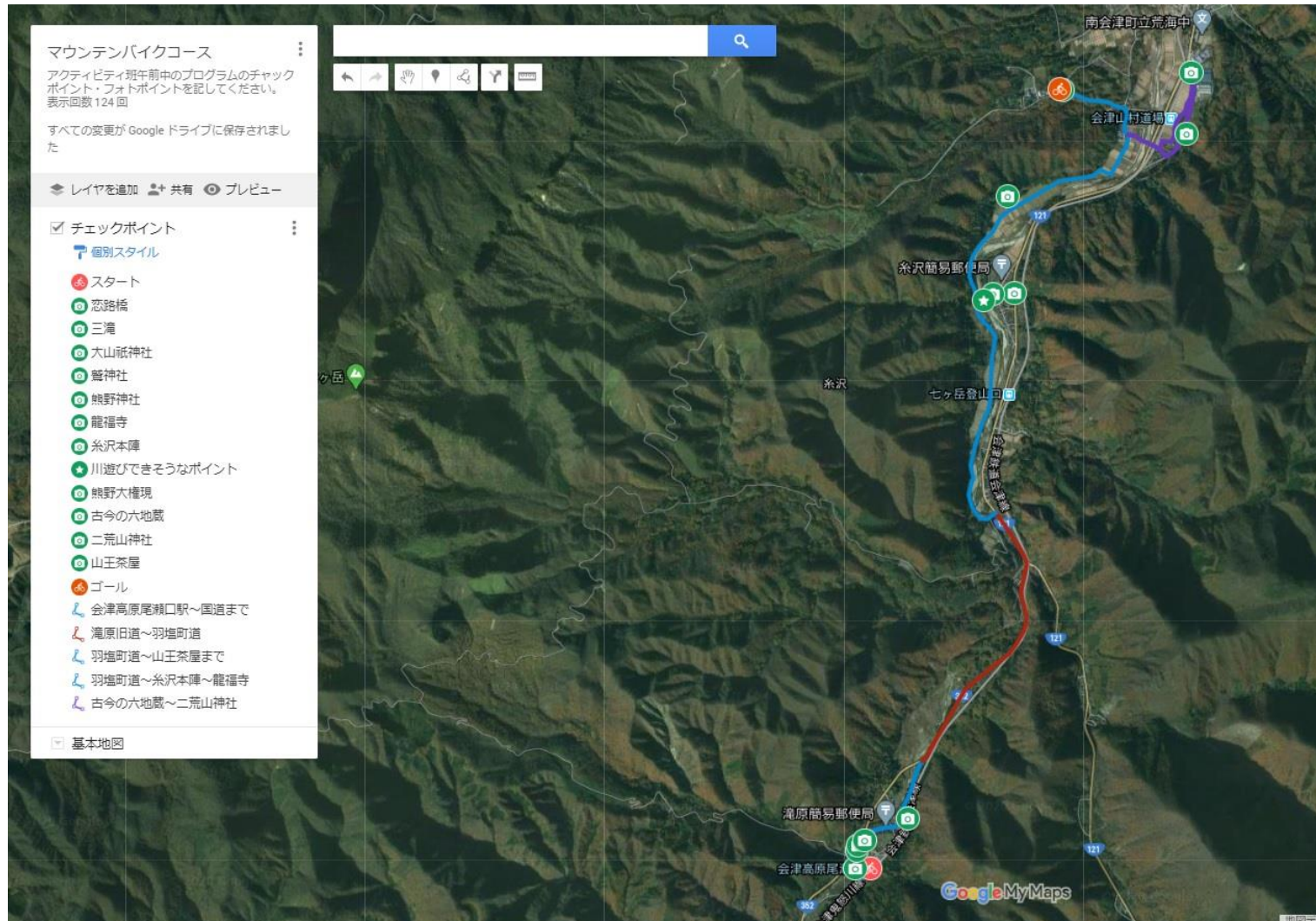
観光大使

映画アニメ
をつくる

別の地域の
人と繋がる

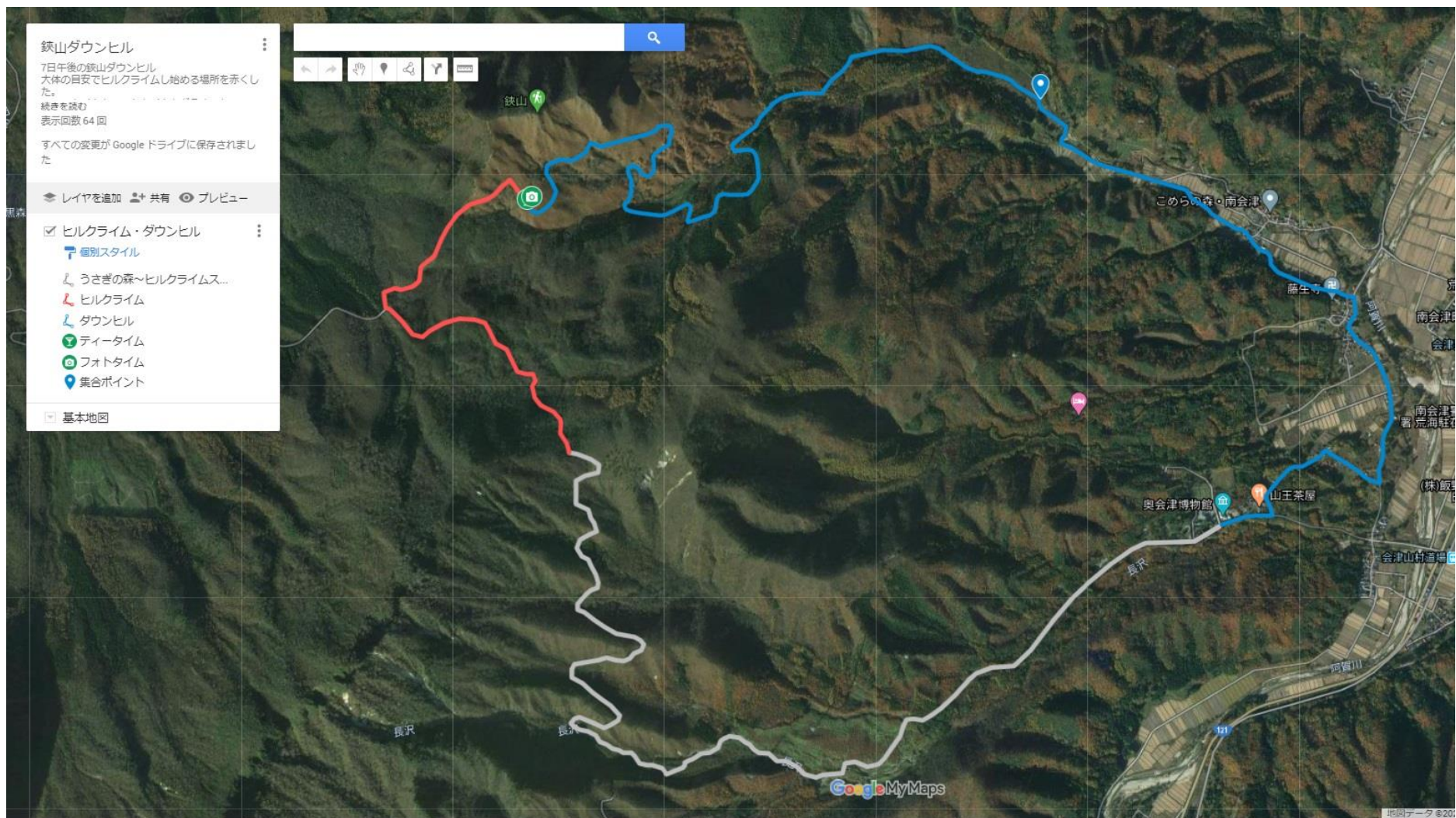


3. 造成体験コース



電車で会津山村道場駅から会津高原尾瀬口駅まで行き、そこから各スポットを巡りながら会津山村道場まで行く比較的初心者向けのコース。
なお、コースはグーグルマイマップで作成しており、下記 URL にアクセスすれば誰でも閲覧可能である。

<https://drive.google.com/open?id=1sfnadLFU7x5htPlxMN5s0AiAwnCDtoUb&usp=sharing>



会津山村道場から林道を登り、鉄山頂上からダウンヒルで会津山村道場まで戻ってくる上級者向けコース。
なお、コースはグーグルマイマップで作成しており、下記 URL にアクセスすれば誰でも閲覧可能である。
<https://drive.google.com/open?id=1Gca83KTdN-lgpzIWJnNsTieGDzKe9Tms&usp=sharing>

4. 施策案の事前評価シート

施策案の事前評価シート

	目標への貢献	費用	実行可能性	時間	副望ましく ない 用い	※	※	集計	評価順位	提案順位
1.										
2.										
3.										
4.										
5.										
6.										
7.										
8.										
9.										
10.										

※には追加する評価項目を記入してください。

5. ログフレーム

プロジェクト名: _____

期間: _____

対象地域: _____

ターゲットグループ: _____

プロジェクトの要約	指 標	指標の入手方法	外部条件
上位目標			
プロジェクト目標			
成 果			
活 動	投 入		
			前提条件